

第4章 教育内容・方法・成果  
4-(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

<1>大学全体

神戸松蔭女子学院大学は教育理念・目的を学則第1条に次のとおり定めている。

第1条 本学は聖公会キリスト教主義に基づく人格の完成と心身ともに健康な社会人の育成を期して高い学問的教養を授けるとともに学術研究の場として深く専門の学芸を研究教授することを目的とする。

この理念・目的を基礎に大学全体、学部、学科・専攻にブレイクダウンする方法で、具体的な人材育成の目的、教育目標を定めている。

本学（学士課程）全体の人材育成に関する目的、教育目標は学生便覧に、学部学科については履修ガイドの「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の項目に、修得すべき能力・成果と関連づけて明示し、本学教職員、学生への周知を図っている。また、それらの方針はホームページで公開されており、受験生、一般への周知にも努めている。

本学（学士課程）全体の人材養成の目的、教育目標は、キリスト教の愛の精神を基本とした女子教育を通じて、他者への思いやりの心をもって社会へ貢献することができる社会人の養成である。この目標に基づき、学位授与の方針を「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」の3つに分けて具体的に示している（資料4(1)-1 p.3）。

<知識・理解>

- (1) グローバル化した国際社会で、1つ以上の外国語を習得し、その知識を生かして、異文化・多文化の存在・価値を十分に理解できる。
- (2) 人間の生きてきた歴史・環境について正しい知識を持ち、社会の中での人間の果たすべき役割を理解できる。

<汎用的技能>

- (1) 日本語・外国語による十分なコミュニケーション能力を習得するとともに、生涯にわたって学び続けることのできる基礎力を身につけている。
- (2) 社会に流通する情報を正しく把握し、その批判的な受容に基づいて、論理的に思考でき、自分の考えを正確に述べることができる。

<態度・志向性>

- (1) 自立した女性として、自己を確立することに努力するとともに、自己実現のみを願わず、学んだことを社会に還元し、社会の中で他者と調和して生きていくことができる。
- (2) 狭い専門の枠にとどまることなく、広い視野を持って専門的技術を身につけ社会に貢献できる。

以上が本学（学士課程）において修得すべき学修成果であり、本学（学士課程）の教育目標との整合性が確保されている。

大学（学士課程）の卒業要件、各種課程の修了要件は、学則第8条から第10条の6に、

修業年限は学則第3条に明記している。また、卒業認定、学位については学則第22条、第23条に定めている。学則は学生便覧に掲載し、学生に周知するとともに、ホームページにも掲載し、広く公開している。

#### <2>文学部

文学部の教育目標（教育目的）は、本学建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献しうる知見と能力を育成することである。文学部では、その教育目標に基づき、学位授与方針を次のとおり定めている（資料4(1)-2 p.39）。

##### <知識・理解>

日本語・外国語を含む言語をはじめとした多様な媒体によるコミュニケーションの諸相に触れることを通じて、個々の専攻分野において、「ことば」そのものに対する知識を身につけるだけでなく、その背景にある文化的・歴史的な観点からの社会および自然環境における人間の多様なありかたに関する幅広い知識を主体的有機的に習得している。

##### <汎用的技能>

情報化・グローバル化の進む現代社会の多様な局面において、ことばによる外部情報の的確な受容・判断・理解と論理的な思考の能力、および、自分の意思を説得力のある形で発信できる幅広いコミュニケーション能力を身につけ、広い視野に基づいた冷静かつ客観的な判断力を背景として、他者と協同し、問題を解決していく実践的スキルをもつ。

##### <態度・志向性>

多様な価値観の並存する社会において、豊かな感受性をもって、自立した個人として柔軟に行動できる力をもつ。さらに、自らの社会での経済的自立を旨とし、生涯にわたって学び続ける姿勢をもつことに加えて、他者との関わりにおいて、キリスト教の愛の精神をもって、学んだ結果を社会貢献に生かすことができる。

文学部の学位授与方針として求めるものは、社会の発展に貢献しうる知見と能力を育成するという教育目標に沿った、知識、技能、態度・志向性の修得であり、教育目標との適切な整合性をもつものである。

以上の学位授与方針において明示している知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の修得が文学部において達成すべき学修成果である。

#### <3>人間科学部

人間科学部の教育目標（教育目的）は、本学建学の精神であるキリスト教の愛の精神と、人間諸科学を基本とした女子教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる社会人を育成するとともに、社会科学、自然科学という複合的な観点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、より良い方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材を育成することである。人間科学部では、その教育目標に基づき、学位授与方針を次のとおり定めている（資料4(1)-2 p.93）。

<知識・理解>

人間の生きてきた歴史や環境、人間社会について正しい知識を持ち、これからの新しい社会の中で自らの果たす役割を理解できる。

<汎用的技能>

社会に流通する情報を正しく把握し、その批判的な受容に基づいて、論理的に思考し、自分の考えを正確に述べることができる。各学科の専門分野において、問題を発見し、それを解決するための提案や行動ができる技能をもつ。

<態度・志向性>

すべての人間に対して深い愛情と思いやりを持って接することができる。人間・環境・社会に対して強い関心を持っている。

人間科学部の学位授与方針として求めるものは、社会の発展に貢献しうる知見と能力を育成するという教育目標に沿った、知識、技能、態度・志向性の修得であり、教育目標との適切な整合性をもつものである。

以上の学位授与方針において明示している知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の修得が人間科学部において達成すべき学修成果である。

<4>文学研究科

神戸松蔭女子学院大学大学院は、教育理念・目的を学則第1条に次のとおり定めている。

(目的)

第1条 神戸松蔭女子学院大学大学院（以下「本大学院」という。）は、聖公会キリスト教主義に基づく人格形成を根本方針とし、学部における教育・研究の基礎の上に、さらに高度にして専門的な学術の理論および応用を研究教授し、深い学識と高い研究能力・実践力を養い、文化の創造的発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。

この理念・目的を基礎に研究科、専攻にブレイクダウンする方法で、具体的な人材育成の目的、教育目標を定めている。

文学研究科の人材育成に関する目的、教育目標は大学院要覧の補遺に、各専攻については大学院要覧の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の項目に、修得すべき能力・成果と関連づけて明示し、本学教職員、学生への周知を図っている。

文学研究科全体の人材養成の目的、教育目標は、言語と文化と人間心理を探求し、文化の創造的発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することである。その方針のもとに各専攻の人材育成に関する目的を定めている。それらの目的で定められた人材となりうる学識と能力を持つと判断された者に学位を授与する方針である（資料4(1)-3 p.1）。

<英語学専攻>

個別言語としての英語の性質の探求を通して、人間の言語の普遍的特性を求めるといふ、現代言語理論に則った研究を推進する。また、これを基盤として、社会言語学、心理言語学、言語哲学、情報科学などの関連領域を探究し、人間の社会的特性、思考や習得のメカニズムに多角的なアプローチを試みる。本専攻が育成する人材は、国際性があり、研究に必要な情報を取得・処理・表現する能力、および、広く、体系的な知識を持ち、自然科学・工学との対話が可能な人文科学の研究者および技能職業人である。

<国語国文学専攻>

日本語および日本文学を対象とし、日本語の変遷や我が国の伝統遺産である日本文学の実証的研究を中心とした研究を行う。本専攻では過去から蓄積されてきた文献を主にした基礎的な研究を柱とするが、特に日本語学の領域では社会言語学など現代日本語の研究を推進すると共に、外国語との比較研究や日本語教育も重視する。本専攻が育成する人材は、体系的な知識を持つ研究者や国語教員、あるいは日本語を教授できる技能職業人である。

<心理学専攻>

臨床心理学コースの教育研究の目的は、困難な現代を生きる人たちに関する発達や偏り、不適応などに関する臨床心理学の理論を習得させることである。人材育成に関する目的は、そうした理論に基づいた具体的援助技法や、その際に必要とされる態度・倫理を身に付けた、心理学的援助の専門家を育成することである。

心理学コースでの教育研究の目的は、困難な現代を生きる人間心理が対象であり、実験や調査を用いた行動科学としての心理学に基づいた先端的な知識を学び、人間心理の一般的法則やしぐみの解明について習得させることである。人材育成に関する目的は、研究者や実証的調査の専門家を育成することである。

<言語科学専攻>

言語科学専攻は、自然言語の性質を言語科学分野の各領域から多角的に探求することにより、人間に固有の能力としての言語の普遍的特性を求める。博士課程は一次的に研究者の養成を目指すものであるが、大学院教育の役割が多様化している現在、研究者以外の人材を生み出す可能性も求められていることを認識し、柔軟に対応する。すなわち、本専攻が育成する人材は、研究分野について広く体系的な知識を有し、そのような知識を国際的な場で生かすことが可能な人文科学の研究者および専門家である。

以上の学位授与方針において明示している知識・技能の修得が、文学研究科各専攻において達成すべき学修成果である（資料4(1)-4、4(1)-5）。

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

<1>大学全体

教育目標・大学の学位授与方針を実現するための教育課程の編成・実施方針は本学ホームページと学生便覧で次のとおり明示、公表している（資料4(1)-1 p.3、資料4(1)-6）。

<全学共通科目>

情報の受容・発信において必要とされるコミュニケーション力を身につけるとともに、キリスト教の愛の精神を正しく理解し、他者への寛容、地域社会への貢献などに対する感覚を養う。

<外国語科目>

日本語以外の言語を学ぶことを通じて異文化・多文化に対する理解を深めるとともに、国際化した社会の中で生きていく社会人としての基礎的な技術を身につける。

<専門教育科目>

柔軟で実践的な教養力に基づいて、論理性に裏付けられた知識を身につけるとともに、人間性・自然に対する十分な理解に支えられた専門性を身につける。

キリスト教主義に基づく人格の完成という教育目標を達成するために、全学共通科目に

において「神戸松蔭とキリスト教」を必修としている。また自立した女性として、自己実現をはかり、学んだことを社会に還元できるように、キャリア・ビジネス教育系列、コミュニケーション教育系列、情報教育系列を配している。

外国語による十分なコミュニケーション能力を習得するために外国語科目を必修とし、高い学問的教養および専門の学芸を授けるために、各学科・専攻においてその教育課程を充実させている。

教育課程改編時には教育目標・学位授与方針との整合性を、各学科・専攻、教育センターで検討し、教務委員会、教学委員会で点検している。

科目区分、必修・選択の別、単位数等については、神戸松蔭女子学院大学学則に下記のように明示している（資料4(1)-7）。

（授業科目）

第8条 授業科目は、全学共通科目、外国語科目、専門教育科目および副専攻科目に分け4学年に配当する。

（履修方法）

第9条 学生は次の各号に掲げる科目区分について、学科ごとにそれぞれの当該各号に定める単位数を履修し、124単位以上を修得しなければならない。

（以下 省略）

学則第9条および学則別表に定められている卒業必要単位の科目区分、必修・選択の別、単位数は、学科・専攻ごとに履修ガイドに明示されている。

また修業年限・学年・学期・授業期間および休業については、神戸松蔭女子学院大学学則第2章の第3条から第7条に定められている。

## 〈2〉文学部

文学部では、教育目標および学位授与方針に基づき、教育課程の編成・実施を次のような方針で行っている（資料4(1)-2 p.39）。

- (1) 各学科・専修に、基本的な科目をセットにした「コア科目群」を定め、その中から1つの「メジャー」を選び、3年次のゼミ・演習、4年次の卒業研究において、少人数のきめ細かな指導を通じて、専門性を身につける。
- (2) これらのコア科目群は、専修・学科の枠を超えて、文学部内で自由に組み合わせて履修することができる。
- (3) 各学科における専門教育科目においては、それぞれの専門分野における「ことば」の役割、その背景にある自他の文化・歴史を理解することを中心として、日本語を含む語学力に支えられたコミュニケーション能力を養成する。

学生は1、2年次で概論・入門的科目を学び、2、3年次で専門分野の核となる科目においてコミュニケーション能力を身に付け、広い視野に基づいた冷静かつ客観的な判断力を養い、3、4年次でのゼミ・演習、卒業研究につなげるという、順次的、体系的な履修によって、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合うことができるように教育課程を編成している。

文学部の科目は「全学共通科目」「外国語科目」「専門教育科目」「副専攻科目」に区分され、必修・選択の別と各区分で修得すべき必要単位数は履修ガイドに明示している（資

料4(1)-2)。

### <3>人間科学部

人間科学部では、教育目標および学位授与方針に基づき、教育課程の編成・実施方針を次のとおり定めている(資料4(1)-2 p.93)。

各学科の専門教育科目においては、講義で論理性に裏付けられた科学的知識を身に付け、演習・実習・実験で問題発見、解決への提案、それらを実行できる技能を養う。

人間の生きてきた歴史や環境、人間社会について正しい知識を授け、論理的思考力と批判的思考力を養うために全学共通科目、専門科目において、充実した講義科目を配置し、学年進行に伴い、各学科の専門分野において、問題を発見しそれを解決するための提案や行動ができる技能科目として演習・実習・実験を配した。さらに卒業研究などの科目において、提案や行動など態度・志向性をさらに養う。

人間科学部の科目は「全学共通科目」「外国語科目」「専門教育科目」「副専攻科目」に区分され、必修・選択の別と各区分で修得すべき必要単位数は履修ガイドに明示している(資料4(1)-2)。

### <4>文学研究科

神戸松蔭女子学院大学大学院の教育課程編成の基本方針は、専門的な学術の理論および応用を研究教授し、深い学識と高い研究能力・実践力を養うことである。さらに、各専攻において教育研究の目的を定め、教育課程を編成・実施している。

なお、各専攻の教育研究の目的は「神戸松蔭女子学院大学大学院 教育研究の目的および人材育成に関する目的」において定めている(資料4(1)-4 p.60)。

科目区分、必修・選択の別、単位数等についての情報は、専攻ごとに大学院要覧に定めている(資料4(1)-4 p.30、p.33、p.35、p.36、p.40)。

## (3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。

### <1>大学全体

本学の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、大学構成員に対しては大学のホームページ、大学ポートレートおよび学生便覧で、社会一般に対しては大学のホームページと大学ポートレートで公表している(資料4(1)-1 p.3、資料4(1)-6、資料4(1)-8)。

### <2>文学部

文学部の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、履修ガイドにより大学構成員(教職員および学生等)に周知するとともに、大学ホームページ、大学ポートレートにより社会に公表している(資料4(1)-2 p.39、資料4(1)-6、資料4(1)-8)。

### <3>人間科学部

人間科学部の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、履修ガイドによ

り大学構成員（教職員および学生等）に周知するとともに、大学ホームページ、大学ポータルにより社会に公表している（資料4(1)-2 p.93、資料4(1)-6、資料4(1)-8）。

#### 〈4〉文学研究科

文学研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、大学院要覧により大学構成員（教職員および学生等）に周知するとともに、大学ホームページ、大学ポータルにより社会に公表している（資料4(1)-3 p.1、資料4(1)-5、資料4(1)-8）。

#### (4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

##### 〈1〉大学全体

学長室、学部、学科・専攻それぞれが、大学、学部、学科・専攻の教育課程の編成・実施方針の適切性について毎年検証している。また、カリキュラムの変更申請に対しては、変更点が教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針と整合しているかどうかを教務委員会が点検し、各学科・専攻長、教育センター所長を加えた拡大教務委員会で再度審議した後、教授会で承認している（資料4(1)-9）。

##### 〈2〉文学部

文学部学部会議および文学部3学科実務会議において、学部、学科の教育目標、学位授与方針について定期的に検証を行っている。

また、文学部では、次年度カリキュラム編成に際して、各学科が教育課程の編成・実施方針の適切性を点検している。

##### 〈3〉人間科学部

人間科学部学部会議において、学部、学科・専攻の教育目標、学位授与方針について定期的に検証を行っている。

また、人間科学部では、次年度カリキュラム編成に際して、各学科・専攻が教育課程の編成・実施方針の適切性を点検している。

##### 〈4〉文学研究科

大学院委員会では理念・目的との合致について検討した上で、次年度カリキュラムを承認している。

また、文学研究科では、各専攻が次年度カリキュラムの検討を毎年行い、変更点については大学院委員会で審議、承認している。

## 2. 点検・評価

### ●基準4の(1)の充足状況

大学の教育理念・目標に基づき、大学、学部、学科・専攻、大学院の学位授与の方針と、その方針を実現するための教育課程の編成・実施方針を定め、学生・教職員のみならず、大学のホームページ、大学ポータル等を通じて一般に公開している。また、学位の授

与方針と教育課程の編成・実施方針は、教学委員会、教務委員会、学部会議、学科・専攻、教育センター、大学院委員会において定期的に検証・見直しを行っており、同基準をおおむね充足している。

#### ①効果が上がっている事項

学部においては、学科・専攻、教育センターで検討したカリキュラムは、全体的な視点から教務委員会で検討・見直し・修正作業を経たのち、再度拡大教務委員会で諮り、最終的には教授会で承認するというシステムが確立している。

また、2014年度に各学科・専攻の専門教育科目のカリキュラムツリーの作成をしたことで、学位授与方針と教育課程（カリキュラム）の整合性をより明示的に示すことができた（資料4(1)-10）。

#### ②改善すべき事項

学位授与方針と各授業科目の到達目標との整合性については、自己点検・評価を通じて授業担当教員、学科・専攻、教育センター、学部、大学院それぞれが検証しているが、全体として十分に組織化されているとまでは言えない。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

2014年度に、各学科・専攻の専門科目のカリキュラムツリーを作成した。次の段階として、全学共通科目を含めたカリキュラムツリーを作成し、学位授与方針と教育課程（カリキュラム）の整合性を専門教育だけではなく一般教養を含めた広い視点から検討する。

#### ②改善すべき事項

学位授与方針と各授業科目の到達目標との整合性を点検するシステムを確立し、点検の結果が授業へとフィードバックできるようにする。

### 4. 根拠資料

4(1)-1 2014年 神戸松蔭女子学院大学 学生便覧（既出 1-4）

4(1)-2 2014年度 神戸松蔭女子学院大学 履修ガイド（既出 1-6）

4(1)-3 2014年度 大学院要覧補遺（既出 1-8）

4(1)-4 2014年度 神戸松蔭女子学院大学大学院 大学院要覧（既出 1-9）

4(1)-5 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「神戸松蔭女子学院大学大学院 理念・目的・方針」（既出 1-13）

<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy.html>

4(1)-6 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「神戸松蔭女子学院大学 理念・目的・方針」（既出 1-12）

<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/foundation.html>

<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy.html>

4(1)-7 神戸松蔭女子学院大学学則（既出 1-2）

- 4(1)-8 大学ポートレート 神戸松蔭女子学院大学 抜粋 (既出 1-14)
- <http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000572501000.html>
  - <http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501001.html>
  - <http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501004.html>
  - <http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501002.html>
  - <http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501003.html>
- 4(1)-9 教務委員会記録(2013年度第4回、第5回、第6回、第8回、第9回)・拡大教務委員会記録(2013年度)・教授会記録(2013年度第14回)
- 4(1)-10 履修モデル図(カリキュラムツリー)

## 4-(2) 教育課程・教育内容

### 1. 現状の説明

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

#### <1>大学全体

全学共通科目については、全学共通教育センター、外国語教育センター、情報教育センター、キャリア教育センターが大学の教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設している。専門教育科目については、各学科・専攻がそれぞれの教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を適切に開設している(資料4(2)-1)。

順次性のある授業科目の体系的配置については、全学共通科目の一般教養系列が、科目の内容・難易を基に、1、2年次配当の基礎・導入科目と2、3年次配当の発展科目に分けている。その他の全学共通科目と各学科・専攻の専門教育科目については、配当年次を適切に設けることによって履修の順次性とカリキュラムの体系性を確保している。また、2014年度から、学科・専攻ごとに専門教育科目のカリキュラムツリーを作成し、科目間の関連性と体系的、履修の順次性を明示している。

教養教育を構成する全学共通教育科目のカリキュラムにおいては、建学の精神に基づく「神戸松蔭とキリスト教」を必修科目とするほか、主として2年次までに一般教養系列、コミュニケーション教育系列等の6つの系列全般にわたる科目、および外国語科目を履修することによって自己基礎力を養成する教養教育を行い、その基礎力の上に立って自己の深化を図るものとして学科・専攻での専門教育を位置づけている(資料4(2)-2)。

#### <2>文学部

文学部では、2011年の新学科設置に伴い科目群を設定した。学生は科目単位で履修するのではなく科目群単位で履修することによって専攻する学問分野を体系的に学修することが可能になった(資料4(2)-2 p. 41)。

英語学科・日本語日本文化学科・総合文芸学科の専門教育は、1、2年次に学科の専門教育に必要な基礎教育を実施し、3、4年次には、コア科目群制度と自由な科目選択により、各自の専門性を深めるためのカリキュラムを構築できるようにしている。

英語学科では、学ぶ英語の性質の違いにより「英語プロフェッショナル専修」と「グローバルコミュニケーション専修」を設けている。各専修に基本的な科目をセットにした計6つのコア科目群を定め、その中から1つの「メジャー」を選び、3年次のゼミ、4年次の卒業研究においてより深い専門性を身に付ける教育課程となっている。また、2つの専修に共通の「共通コア科目群」として、「国際秘書科目群」「エアライン科目群」「英語コンピュータ科目群」など卒業後の進路を見据えた実務的な科目を配置している(資料4(2)-2 pp. 58-59)。

日本語日本文化学科では、現代日本語を中心に学ぶ「現代日本語専修」と日本文化・文学を中心に学ぶ「日本文化専修」を設けている。両専修で合計5つの「コア科目群」が定められ、その中から1つの「メジャー」を選択したうえで、3、4年次の演習、4年次の卒業研究において専門的な学修を進めることになる。また、2つの専修に共通の「共通コア

科目群」として、「アジア言語科目群」「書道科目群」など多様な関心に対応し、また卒業後の進路を見据えた科目を配置している（資料4(2)-2 pp. 70-71）。

総合文芸学科では、多様な文芸のあり方に基づいて、「総合文芸コース」と「メディア・広報コース」を設けている。両コースには、合計5つの「コア科目群」が定められ、選択した科目に対応した3年次の演習、4年次の卒業研究を加えてメジャーとし、より深い専門性を身に付ける課程となっている（資料4(2)-2 pp. 80-81）。

また、文学部では、学生の興味・関心の多様性に応じて、学部内他学科の科目および科目群を自由に履修できる制度を設けており、学科・専修を超えた発展的カリキュラムを可能にすることにより、学生の旺盛な知的好奇心への対応を図っている。

次に、専門教育・教養教育の位置づけではあるが、文学部の教育課程では、全学共通科目のカリキュラムにおいて、建学の精神に基づく「神戸松蔭とキリスト教」を必修科目とするほか、主として2年次までに一般教養系列、コミュニケーション教育系列等の6つの系列全般にわたる科目、および外国語科目を履修することによって自己基礎力を養成する教養教育を行い、その基礎力を踏まえて自己の深化を図るものとして学科での専門教育を位置づけている。文学部の学科においては日本語・外国語を含む言語をはじめとした多様な媒体によるコミュニケーションの諸相に触れるため必修単位を定めている。

### 〈3〉人間科学部

人間科学部各学科・専攻の専門教育は、1、2年次で概論・入門的科目、2、3年次で専門分野の核となる科目、3、4年次での演習、卒業研究と順次的、体系的な履修を実践することができるようになっている。

また、専門教育・教養教育の位置づけについてであるが、人間科学部の教育課程では、全学共通科目のカリキュラムにおいて、建学の精神に基づく「神戸松蔭とキリスト教」を必修科目とするほか、主として2年次までに一般教養系列、コミュニケーション教育系列等の6つの系列全般にわたる科目、および外国語科目を履修することによって自己基礎力を養成する教養教育を行い、その基礎力を踏まえて自己の専門の深化を図るものとして各学科・専攻での専門教育を位置づけている。各学科の専門分野において、問題を発見し、それを解決するための提案や行動ができる技能を重視するため、専門科目の実習・演習科目が早い年次から始まる。

### 〈4〉文学研究科

文学研究科各専攻の教育課程は「神戸松蔭女子学院大学大学院 教育研究の目的および人材育成に関する目的」に基づき編成している。専攻のカリキュラムの体系的編成については、大学院要覧で専攻ごとに「カリキュラムの特色と構成」として解説している。

英語学専攻は語学系統、英語学系統、実習系統に、国語国文学専攻は国文学系統と日本語学系統に、心理学専攻は、臨床心理学コースと心理学コースに分かれ、それぞれの系統、コースごとに体系的な学修ができるように、科目選定に関して履修指導している。

リサーチワークについては、英語学専攻では指導教員が定期的に面談し履修指導するとともに、各学期終了時に研究内容について発表する機会を設けている（資料4(2)-3）。心理学専攻では、1年次に臨床心理学コースは「臨床心理学特別研究A・B」を、2年次に臨

床心理学コース、心理学コースとも修士論文作成のための個別指導を受ける科目として「心理学特別研究」を設けている。

言語科学専攻では、1年次に2つの分野を専攻科目として資格審査論文を課し、その結果によって最終的な学位論文の分野とテーマを決めるように指導している（資料4(2)-4 p.40）。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

〈1〉大学全体

各学科・専攻、教育センターは、学位授与方針を実現するために、不断にカリキュラムを見直し、教育内容の充実に努めている。学科・専攻、教育センターから提出された次年度のカリキュラムは、教務委員会、拡大教務委員会で検討したのち、教授会での審議を経て承認される（資料4(2)-5）。

18歳人口の減少と大学進学率の増大に伴い、基礎学力の低下と学習意欲の希薄な学生が増えてきたが、そういった学生のためにリメディアル教育として、全学共通科目や専門教育科目において一部基礎的な科目、入門的な科目を用意している。また、1年生に対しては、クラス担任が担当する少人数の導入教育科目や基礎演習科目を各学科に置き、大学における学習に円滑に移行できるようにしている（資料4(2)-6）。高大連携に配慮した教育としては、2月中旬にAO入学者と推薦選考合格者を対象に入学前準備講座として3日間の「大学基礎講座」を実施している（資料4(2)-7）。併設校の松蔭高校に対しては、一貫教育の一つとして、2年生を対象として、大学での学びと各学科・専攻での学問紹介を目的とする「大学特別講座」を開設している（資料4(2)-8）。また、県下、または県外の高等学校からの求めに応じ出張講義を行っている（資料4(2)-9）。

〈2〉文学部

文学部の各学科では、それぞれの教育課程の編成・実施方針に沿って、学士課程教育に相応しい内容の提供に努めている。

英語学科では、二つの専修それぞれに、特定の分野に関わる基本的な科目をセットにした「コア科目群」が設けられている。英語プロフェッショナル専修では、「通訳・翻訳科目群」「英語イメージ科目群」「中期留学関連科目群」が設けられ、専門分野の知識を深めるだけでなく、実務的な能力の修得といった目標に合わせた科目の体系的履修を図っている。グローバルコミュニケーション専修では、「英語コミュニケーション科目群」「児童英語科目群」「中高英語教育科目群」「英語学科科目群」が設けられ、高度の英語コミュニケーション能力を支える英語圏の文化・社会の理解や英語の早期教育に関わる知識・技能の修得を目指す教育内容となっている（資料4(2)-2 pp.66-68）。

日本語日本文化学科では、「日本語」と「日本文化」をキーワードとする2つの専修それぞれに、「コア科目群」が設けられている。現代日本語専修では、「日本語コミュニケーション科目群」「ことばと社会科目群」「日本語教育科目群」が設けられ、専門とする分野と同時に、外国人への日本語教授能力の養成という実務的な能力の養成をも含めた体系的な科目履修を図っている。日本文化専修には、「日本文化科目群」「日本文学科目群」が設けられ、日本文学、日本文化を通じた幅広い教養の養成、思想や文化の学問的究明を通じ

た的確な理解力、深い洞察力の育成を図る教育内容となっている(資料4(2)-2 pp. 77-78)。

総合文芸学科では、広範かつ重層的な概念である「文芸」の多様なとらえ方を反映する科目を大きく2つのコースに整理してカリキュラムを編成している。総合文芸コースには、「芸術と文化科目群」「神話と文芸科目群」「視覚表現と文芸科目群」「歴史と文化科目群」が設けられ、芸術、文化、文芸の多様な魅力に触れ、柔軟で幅広い考察力・洞察力とそれに基づく情報発信力の養成を図る科目によって課程が編成されている。メディア・広報コースでは、「メディア・広報科目群」として、文化・社会の時流を切り取る報道や広告の役割、表現法などを専門的に学び、創造的なメッセージを発信する力の養成を図る教育内容となっている(資料4(2)-2 p. 88)。

### <3>人間科学部

心理学科では大きく分けて4つの科目群、多彩な心理学の各分野の基礎を学ぶ「心の基礎理論」、実習を交えながら実証的研究方法を学ぶ「心の研究法」、自身や他者の心の健康の維持・向上のための方法を学ぶ「心の援助」、現代社会における日常的な人間関係と臨床・社会心理学的問題を学ぶ「心と現代社会」を開設し、さらに少人数の演習科目群「ゼミナール(ゼミ)」を設けている(資料4(2)-2 pp. 122-123)。

生活学科都市生活専攻では、都市生活の特徴、都市が抱える環境・生活上の諸問題などの基礎知識を修得する科目、都市生活の生活問題などを把握・検討するための方法と技術を修得する科目、資格取得の関連知識、社会と関わり、実践力を高めることを目的とした科目を設けている。さらに修得した知識や技術を統合、集大成する卒業研究を行う(資料4(2)-2 pp. 130-131)。

生活学科食物栄養専攻の専門教育科目は、管理栄養士学校指定規則に基づき、高度な栄養指導技術に必要な専門知識を円滑に修得するための専門基礎科目、それを基盤により高度な栄養評価・判定のできる専門的知識と技術の修得のための科目、専門知識・技術の統合分野で、実践の場で必要な知識と技術の統合を図るための演習・実習科目により構成される。また、管理栄養士としての質の向上を図るための専門選択科目を用意している(資料4(2)-2 pp. 140-141)。

子ども発達学科の専門教育科目群には、保・幼・小免許必修科目群の他に、子どもの心理や発達、環境理解に関する科目、教育実習以外の学内外の実習を取り入れた(資料4(2)-2 pp. 150-152)。

ファッション・ハウジングデザイン学科では、2つのデザイン領域に共通し、「デザイン」の意味を理解するための、主として講義科目から成るデザイン基礎科目等の学科共通科目と、個々の進路に応じた応用的・実践的知識や技能を修得するために、2領域それぞれの専門的講義・演習・実習科目から成る専門展開科目に区分している(資料4(2)-2 pp. 174-175)。

### <4>文学研究科

英語学専攻では、音声・語・文法・意味を中心とする、言語研究の「中核分野」を主軸として研究している。言語の性質を探求することで、人間の認知能力を解明することを目標にしている。そのために、カリキュラムは3系統の科目群構成となっている(資料4(2)-10

p. 30、資料4(2)-11)。

語学系統においては、リサーチ・プレゼンテーションやアーギュメンテーションによって、英語力の向上を目的としている。

英語学系統においては、英語の構造や英文法、言語と哲学、語と文法、文法と意味、言語と認識、意味・語用論、異文化理解教育論などによって、英語学の理論分野および英語学に隣接する応用分野を研究する。

実習系統においては、コンピュータ・イン・リサーチやフィールドワーク、言語と統計など、研究・実務の両方に応用できる技能の実習をする。

国語国文学専攻では、日本語と日本文学についての長い歴史を持つ研究の伝統を踏まえ、日本語と日本文学についてのより深い研究を行い、そのための研究方法を身に付けていくことを目標としている。そのために国文学系統、日本語学系統の両系統のカリキュラム構成となっているが、両系統ともに、他の系統の科目も修得する共通課題も要求している(資料4(2)-10 p. 33、資料4(2)-11)。

国文学系統においては、古代(上代・中古・中世前期)から近代(中世後期・近代・現代)までの各領域における国文学特殊講義、国文学演習、国文学史特殊講義、国文学史演習において、散文と韻文、および戯曲を対象に研究指導する。

日本語学系統においては、古代から近代・現代までの日本語を対象として、日本語学特殊講義、日本語学特殊講義、日本語学演習、日本語教育特殊講義、日本語教育演習において、音韻、文法、語彙等各方面からの学習・研究を目指し、また諸外国語との対照研究も重視する。

心理学専攻では、実験・調査を中心とする実証的な心理学諸分野の科目を充実し、臨床系と実証系のいずれかに軸足を置きながらも、幅広い心理学的知識と技能を持ったカウンセラー、研究者を養成することを目標としている。そのため心理学専攻には臨床心理士の養成を目的とした「臨床心理学コース」と実証的調査の専門家を養成する「心理学コース」を設定した(資料4(2)-10 pp. 35-36、資料4(2)-11)。

臨床心理学コースにおいては、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助などの技法を修得する実習科目と臨床心理学の様々な理論と心理臨床的研究の方法を修得する科目を置き、特に実習科目においては附属の松蔭こころのケア・センターにおける実習や学外臨床実習を充実させている。

心理学コースにおいては、発達心理学と社会心理学を中心に、実験・調査といった実証的方法による研究科目からなっている。

言語科学専攻では複数の分野に習熟するようにカリキュラムを編成している。言語科学の体系的な研究指導と、最新の言語情報処理に関する実技的訓練という2つの分野の特色を活かし、広く体系的な知識を持つだけでなく、研究情報を多角的に取得・処理・表現でき、自然科学・工学との有機的な対話も可能な、国際的レベルの研究者・技能職業人の育成を目指している(資料4(2)-10 p. 40、資料4(2)-11)。

## 2. 点検・評価

### ●基準4の(2)の充足状況

学科・専攻会議、教育センター会議、大学院委員会がカリキュラムの検討・見直しを毎

年行い、それぞれの教育課程の編成・実施方針に基づいて全学的に授業科目を適切に開設している。学部のカリキュラムの体系性については、全学共通科目は、1、2年次に基礎・導入科目、2、3年次に発展科目を配当することで、学科・専攻の専門科目は1、2年次に入門・概論科目、2、3年次に専門基礎教育科目、3～4年次に専門教育科目と卒業研究を配当することで基礎から発展へと有機的に関連した教育を提供している。また、文学部3学科では、授業科目をテーマごとにセットした科目群を設定することでより一層体系的なカリキュラムとなっている。以上のことから授業科目の適切性、体系性、履修の順次性が確保されており、同基準をおおむね充足している。

#### ①効果が上がっている事項

学部においては、学科・専攻会議等が検討したカリキュラム変更案を、教務委員会、さらに拡大教務委員会で検討することで、全体的方針のもと客観的な視点で教育課程、教育内容をチェックすることができている。なお、2013年度から学科課程委員会を教務委員会に改組し、委員も5名から7名にした。委員が増えたことで、チェック体制が充実した(資料4(2)-12)。

カリキュラムの体系性と履修の順次性については、各学科・専攻の専門教育科目のカリキュラムツリーを作成することで明示的に示すことができるようになった。

#### ②改善すべき事項

学部においては、全学共通科目と各学科・専攻の専門科目はそれぞれの教育目標のもとにカリキュラムが編成されているが、専門教育の中で全学共通科目がどのような役割を果たすのかについては議論されることがほとんどなかった。各学科・専攻によって専門教育の内容が異なるので各学科・専攻がまず個別に検討し、教務委員会が全学的な教育目標に照らして審議決定することが必要である。

研究科においては、全専攻で受験生の減少が見られる。大学院を卒業した後の進路を考慮したカリキュラムの見直しが必要である。英語学専攻、国語国文学専攻においては文学部改編に対応した科目の見直し、心理学専攻の心理学コースでは大学の心理学科以外の学科と連携を検討する。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

作成した専門教育科目のカリキュラムツリーを用いて、各学科・専攻のカリキュラムが学位授与の方針を適切に反映しているかどうかを教務委員会が検証する。

#### ②改善すべき事項

学部においては、各学科・専攻が専門教育科目のみならず、全学共通科目を含めたカリキュラムツリーを作成することによって全学共通教育と専門教育との連携を強化していくことが必要である。

研究科においては、研究者養成だけではなく高度専門職業人としてのカリキュラムを再考する。平成24年中央教育審議会答申で提言された教職課程6年制の動向に合わせて、専

修免許状の実質化を図ったカリキュラムを検討する。

#### 4. 根拠資料

- 4(2)-1 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「カリキュラムの特徴・シラバス」  
[http://www.shoin.ac.jp/academics/cur\\_syl/curriculum\\_lit.html](http://www.shoin.ac.jp/academics/cur_syl/curriculum_lit.html)  
[http://www.shoin.ac.jp/academics/cur\\_syl/curriculum\\_hum.html](http://www.shoin.ac.jp/academics/cur_syl/curriculum_hum.html)  
[http://www.shoin.ac.jp/academics/cur\\_syl/common\\_minor.html](http://www.shoin.ac.jp/academics/cur_syl/common_minor.html)
- 4(2)-2 2014年度 神戸松蔭女子学院大学 履修ガイド (既出 1-6)
- 4(2)-3 大学院英語学専攻・言語科学専攻 2014年度版学位論文作成などに関するガイドライン
- 4(2)-4 2014年度 神戸松蔭女子学院大学大学院 大学院要覧 (既出 1-9)
- 4(2)-5 教務委員会記録(2013年度第4回、第5回、第6回、第8回、第9回)  
拡大教務委員会記録(2013年度)・教授会記録(2013年度第14回) (既出 4(1)-9)
- 4(2)-6 2014年度 人間科学部生活学科都市生活専攻「基礎演習」シラバス
- 4(2)-7 2014年度「大学基礎講座申し込みのご案内」「大学基礎講座 時間割」
- 4(2)-8 2014年度 大学特別講座 案内講座 講義概要
- 4(2)-9 2013年度 出張講義・ガイダンス(業者依頼・直接依頼)実施状況一覧
- 4(2)-10 2014年度 神戸松蔭女子学院大学大学院 大学院要覧 (既出 1-9)
- 4(2)-11 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「大学院 修士課程 博士課程」  
<http://www.shoin.ac.jp/academics/grad/index.html>
- 4(2)-12 各委員会所管事項

4-(3) 教育方法

1. 現状の説明

(1) 教育方法および学習指導は適切か。

<1>大学全体

授業科目については、授業内容や受講人数に即した授業形態（講義・演習・実験実習等）を採用している。次年度のカリキュラム編成においては、新設科目や、授業の内容が変更になった科目については、学科・専攻、教育センターから提示された案を教務委員会で検討し、拡大教務委員会を経て教授会で承認する。

本学では、履修科目登録の上限に取り組んできた。表4(3)-1のように、2013年度入学生より、学科による上限数の違いはあるにせよ、すべての学年において上限を設定した。

表4(3)-1

入学年度 学科 学年	2014年度入学生			2013年度入学生			2012年度入学生			2011年度入学生		
	文学部	人間科学部		文学部	人間科学部		文学部	人間科学部		文学部	人間科学部	
		P, LU, FH	LN, K		P, LU, FH	LN, K		P, LU, FH	LN, K		P, LU	LN, K, FH
1年次	44単位	44単位	48単位	44単位	44単位	*48単位	44単位	44単位	*48単位	44単位	44単位	*48単位
2年次	44単位	44単位	48単位	44単位	44単位	*48単位	44単位	44単位	*48単位	44単位	44単位	*48単位
3年次	44単位	44単位	48単位	46単位	46単位	*50単位	46単位	46単位	*50単位	46単位	46単位	*50単位
4年次	44単位	44単位	48単位	50単位	50単位	*50単位	50単位	50単位	制限なし	50単位	50単位	制限なし

【注意】卒業必要単位数に計上されない資格関係科目を含めた上限は、各年次54単位とする。  
\*付上限単位数について、卒業必要単位数に計上されない資格関係科目は、この上限基準に含まない。  
例) P 1年次の場合（上限44単位）

A	B	C (A+B)	履修登録可否	理由
卒業必要単位数に計上される科目	資格関連科目単位数	履修登録単位数		
40単位	0単位	40単位	○	AとCがいずれも上限単位数以下であるため
42単位	12単位	54単位	○	
44単位	10単位	54単位	○	
46単位	6単位	52単位	×	Aが上限単位数を超えているため

(P…心理学科、LU…生活学科都市生活専攻、LN…生活学科食物栄養専攻、K…子ども発達学科、  
FH…ファッション・ハウジングデザイン学科)

学修指導の充実に関しては、授業に関するものと、授業外学習に関するものがある。授業に関するものとしては、授業内容に応じてTA、SAを配置し、授業の効率と学習効果を高めている。授業外学習に関するものとしては、専任教員がオフィスアワーの時間を設けたり、シラバスに記載された連絡先メールアドレスを用いるなどして学生の質問に対応している。非常勤教員は授業の前後、または、メールアドレスを通じて授業に関する質問に対応している。また、ピア外国語応援サロンには、英語では教員、TA、SA、それ以外の言語では教員が待機し学生の個別指導に当たっている。また不定期ではあるが、サロン主催の各種特別講座を開設している。ピア外国語応援サロンとは別に、本学にはいつでも英語が話せる空間としてイングリッシュアイランドが設けられている。イングリッシュアイランドにはネイティブスピーカーが常駐しており、学生はいつでも英語をブラッシュアップすることができる。フランス語、中国語、韓国語については、2013年度から、試行的にピア

外国語応援サロンにおいて、昼休みなどの時間帯を利用して学生が自由にネイティブスピーカーと接することができるようにした。また、外国人留学生に対しては、日本語の時間帯を設け、学習の便宜を図っている。英語以外の言語については、現在文法と会話を中心にしているが、参加学生に一定数が見込めるのであればさらに充実したプログラムを検討する予定である（資料4(3)-1）。

学生の主体的な参加を促す授業としては、学科の教育内容によって差があるが、基礎演習、演習・ゼミ、卒業研究のほかに、グループ活動と発表を中心とする授業、協同学習を取り入れた授業、地域と連携して課題を解決する授業、現場で職を体験するインターンシップ等が行われている。

## <2>文学部

文学部のいずれの学科においても、演習や卒業研究はもとより、大多数の科目で少人数のクラス編成を行っている（資料4(3)-2）。

外国語科目としての英語科目は、入学時のプレイスメントテストにより、習熟度別クラス編成を行っている。オーラルコミュニケーションの科目においては、1クラス15～20名、ライティングおよびリーディング科目では、1クラス25～30名の受講者数を目安に少人数編成を行っている。同様に英語学科における1、2年次の英語スキル科目においても、入学時のプレイスメントテスト、または、前年度の成績を基にした習熟度別クラス編成が行われており、クラス人数も15名～35名の少人数編成としている。

英語学科では、ゼミ科目を中心にした学生による調査、発表、ディスカッションなどの主体的参加を促す授業のほか、学科行事としての英語スピーチコンテストやポスター・プレゼンテーション・コンテストと連動した形で、関連する授業の中で、スピーチの指導やポスターの準備・発表練習などを行い、学生の主体的な活動を促している（資料4(3)-3）。

日本語日本文化学科では、学外での古典芸能鑑賞のほか、社会言語学的調査としての方言調査の実施、また、日本語教育関連科目における外国人への日本語教授法の実習や日本語チューターとしての活動など、授業の内外を通じて、学生の主体的な活動への参加を促している。

総合文芸学科でも同様に、芸術、文芸作品の鑑賞・批評、報道や広告の表現法の実践訓練など、各種授業において主体的・積極的な活動を求める授業形態がとられている。

## <3>人間科学部

人間科学部の各学科・専攻においては、各分野の専門知識を修得するための講義科目以外に、初年次導入教育としての基礎演習科目、知識・技能・技術を統合する卒業研究や各専門分野に応じた多彩な演習・実習・実験科目が採用されている。

心理学科では、「カウンセリング基礎演習」、「心理学基礎実習」等、生活学科都市生活専攻では、「行動科学基礎演習」、「生活情報処理実習」、「被服整理学実験」等、生活学科食物栄養専攻では、「社会と健康基礎演習」、「調理実習」、「食品衛生学実験」、「臨地実習」等、子ども発達学科では、「乳児保育演習」、「子ども発達実習」、「教育実習」等、ファッション・ハウジングデザイン学科では、「FHD基礎演習」、「ファッションデザイン実習」、「ハウジングデザイン実習」等が挙げられる。

人間科学部の各学科・専攻では、初年次導入教育としての基礎演習科目において、大学での学習方法の導入とともに、プレゼンテーションの方法等を修得させることを通じて、3年次の演習においても学生の授業への主体的な参加を促している。また、学生の社会人力を養うために、演習において灘区や東灘区、兵庫県と連携した活動を展開し、地域貢献のための学生の提案を積極的に発信している（資料4(3)-4、資料4(3)-5、資料4(3)-6）。

#### 〈4〉文学研究科

大学院の場合、演習形式の授業が中心であるが、必要に応じて講義形式、実習形式の授業を行っている。

英語学専攻では、研究のために語学力とコンピュータ使用は不可欠であり、語学系統、実習系統の科目の中でそれぞれの技能の育成を図っている。語学系統では「リサーチ・プレゼンテーションA・B」「アーギュメンテーションA・B」、実習系統では「コンピュータ・イン・リサーチA・B」などの授業がある。

また、2年間で4セメスターに区切ったセメスター制を実施しており、第1セメスターには基礎的な授業を、第2セメスター以降はより専門的な研究指導を行っている。本専攻では、語学充実コース、実務志向コース、研究者志向コースのように各自の進路志向に応じて3つのゆるやかなコースを設定し、力点をおく履修科目を進路に応じて選択できる。

国語国文学専攻では、国文学系統、日本語学系統ともに特殊講義と演習をバランス良く配置している。

入学時あるいは1年次終了時に指導教員を決定し教員と学生の協議のもとに、専攻分野など研究の方向付けを行っていく。本専攻を修了して修士の学位を受けるためには32単位以上を修得し、国文学および日本語学の2分野から、自分の専攻する分野を選択し、その開講科目から20単位以上を修得する必要がある。

心理学専攻では、臨床心理学コースは、1年次から臨床心理学を専門とする指導教員から指導を受け、心理学コースは基礎系心理学を専門とする指導教員から指導を受ける。2年次には担当指導教員から修士論文作成のための個別指導を受ける科目として「心理学特別研究」を設定している。修士論文の研究が本格化する2年次では、いずれのコースも研究の中間報告を学内発表会の形式で行い、担当指導教員以外のアドバイスを受けることができるようにしている。

臨床心理学コースは（財）日本臨床心理士資格認定協会の第一種指定大学院の指定校であり、心理相談施設の神戸松蔭こころのケア・センターでの臨床実習、学外臨床心理実習などを行っている。

博士課程の言語科学専攻では、複数の分野を習熟するようなカリキュラムを編成しており、これを生かすため、学生は入学後直ちに博士学位論文のテーマを決めるのではなく、1年次においては2つの分野を専攻科目として資格審査論文を課し、その結果によって最終的な学位論文の分野とテーマを決めるように指導している。また、外国人教員とのコンサルテーションといった形で語学力向上の訓練を継続的に行っている。

#### (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

##### 〈1〉大学全体

専任教員、非常勤教員全員にシラバスの提出を求めている（資料 4(3)-7）。シラバスの項目についてはFD委員会で検討し、必要なものは随時追加し、必要十分な情報を学生にわかりやすく提供することを目標としている。個々のシラバスについては、学科・専攻長、教育センター所長が学位授与方針との整合性等を毎年点検している。

授業がシラバスの記載どおりに行われているかどうかをチェックするのは、一義的には授業担当教員に任されているが、学期終了後の教員による自己点検・評価報告を基に、学科・専攻長、FD委員、教育センター所長、資格関連科目については教務部長が計画どおり授業が進行していたかを点検している。

#### 〈2〉文学部

シラバスは、全学で統一された様式・要領で作成されている。「到達目標」「授業外における学習」「評価基準と評価方法」等を明示し、その記載に沿った形で授業を行っている。シラバスに示す「授業計画」に基づいて各回の授業が展開されることを原則とし、主体的に授業外学習が行えるよう配慮している（資料 4(3)-8）。授業がシラバスの記載どおりに行われているかどうかをチェックするのは、一義的には授業担当教員に任されているが、学期終了後の教員による自己点検・評価報告を基に、学科長、FD委員が、資格関連科目については教務部長が、計画どおり授業が進行していたかを点検している。

#### 〈3〉人間科学部

シラバスは、全学で統一された様式・要領で作成されている。「到達目標」「授業外における学習」「評価基準と評価方法」等を明示し、その記載に沿った形で授業を行っている。シラバスに示す「授業計画」に基づいて各回の授業が展開されることを原則とし、主体的に授業外学習が行えるよう配慮している（資料 4(3)-8）。授業がシラバスの記載どおりに行われているかどうかをチェックするのは、一義的には授業担当教員に任されているが、学期終了後の教員による自己点検・評価報告を基に、学科・専攻長、FD委員が、資格関連科目については教務部長が、計画どおり授業が進行していたかを点検している。

#### 〈4〉文学研究科

シラバスに毎回の授業計画を掲載し、計画に基づいて実施している（資料 4(3)-8）。

### (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

#### 〈1〉大学全体

成績の評価方法については、シラバスで評価方法と配分を明記している。成績の算出については、公平性を保つために、大体の目安として中央値 75 点を基準として設定し、科目間、教員間で成績評価に差が出ないようにしている。評価方法については、1 回の試験やレポートによるのではなく、複数回の試験・レポート、試験とレポートの併用、また発表や小テストなどを取り入れて多角的な角度から評価することで、学生の学修成果を正確に測定するよう授業担当教員に要請している。

成績評価は、2013 年度入学生までは、100 点満点で算出し、AA から E の 6 段階で評価を行っていたが、2014 年度入学生から functional GPA 評価を導入し、学生の授業に対する

努力を公平・公正に評価するようにした（資料4(3)-9 pp. 35-36）。

学生の成績に対する質問については、成績質問制度を設けている。評価された成績について授業担当教員に質問がある場合は、定められた期間に成績質問票を教務課に提出すれば、授業担当者から回答が寄せられる制度である。

単位の実質化については、シラバスにおいて、授業外における学習（授業前学習と授業後学習）を明示することで、1単位45時間の学修時間の確保に努めている。

既修得科目および他の大学機関等で修得した科目の単位認定については、学則に従って適切に処理している。認定科目、認定方法については毎年学科・専攻、教育センターで審議の上、教務委員会、教学委員会、教授会の審議を経て承認している。

#### <2>文学部

履修科目の単位認定のための成績評価は、定期試験やレポートの成績、出席状況や授業態度、小テスト等の平常点を評価項目とし、授業担当教員が評価している。成績評価の方法はシラバスに明記され、併せて評価の比重を明示することを原則としている。

既修得科目および他の大学機関等で修得した科目の単位認定については、学則に従って適切に処理している。認定科目、認定方法については毎年学科、教育センターで審議の上、教務委員会、教学委員会、教授会の審議を経て承認している。

#### <3>人間科学部

履修科目の単位認定のための成績評価は、定期試験やレポートの成績、出席状況や授業態度、小テスト等の平常点を評価項目とし、授業担当教員が評価している。成績評価の方法はシラバスに明記され、併せて評価の比重を明示することを原則としている。

既修得科目および他の大学機関等で修得した科目の単位認定については、学則に従って適切に処理している。認定科目、認定方法については毎年学科・専攻、教育センターで審議の上、教務委員会、教学委員会、教授会の審議を経て承認している。

#### <4>文学研究科

シラバスに成績評価基準を記載すること、授業外の学習内容を記載することを義務づけている。研究指導についてはすべての専攻で中間報告会を行い、指導教員以外に複数の教員が指導の状況を確認している。学位論文審査については、大学院学位規程に基づき、各論文に対して3名の教員からなる審査委員会を大学院委員会の承認のもとに構成する。審査結果は大学院委員会で報告され承認される。

### (4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

#### <1>大学全体

学生による授業評価アンケートを前・後期、すべての科目について実施している。回収したアンケートは統計処理し、大学全体としての結果は大学ホームページの学内サイトで公表し、科目別のアンケート集計はアンケート用紙とともに授業担当教員に返却している。大学全体の集計結果は科目所属別（学科、全学共通教育センター、外国語教育センター、

情報教育センター、キャリア教育センター、その他資格関係)にアンケート項目ごとの数値をパーセントで示したものである。2013年度からは経年変化についての調査も行っている(資料4(3)-10)。全体の結果については各所属長が傾向を分析し、教育の内容や方法について改善に向けた対策を積極的に行っている。科目別の結果は、授業担当教員の自己点検・評価の参考資料となる。学生からのアンケート結果を基に、授業担当教員は授業を振り返り、次年度に向けての改善策を立てることが求められている(資料4(3)-11)。

学生による授業評価アンケートとは別に、年1回毎年テーマを変え、学生に意見を聞く会を開催している。学生の意見に対する回答は学科、部署ごとにまとめ、ホームページの学内サイトで公開している(資料4(3)-12)。学生の意見や要望を聞き、教員は授業改善に、大学は教育環境の向上に役立っている。

教員による授業参観をFD WEEKと称し、年1回、前期または後期に行っている。他の教員の授業を見学することは、反省や自信に繋がり、自らの授業を振り返るよい機会となっている(資料4(3)-13)。

FD委員会によるFD研修会は年2回開催され、教育内容や方法についての基本的な考えや最新の情報を知ることができる。教員のみならず職員も参加している(資料4(3)-14)。

#### <2>文学部

大学全体の項で述べたように、授業終了時に、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえて授業担当教員が自己点検・自己評価を行い、授業改善に役立っているほか、学科長およびFD委員が、教員による自己点検・評価に対する点検を行い、必要に応じて授業改善に向けての助言を行っている。

FD研修会は、全学組織としてのFD委員会により実施されており、文学部教員も積極的に参加している。授業の相互参観においても、原則としてすべての教員がいずれかの授業を参観することになっており、参観後のコメントの交換など、教育内容・方法の改善に向けた有効な方策の一つとして定着している。

#### <3>人間科学部

大学全体の項で述べたように、授業終了時に、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえて授業担当教員が自己点検・自己評価を行い、授業改善に役立っているほか、学科・専攻長およびFD委員が、教員による自己点検・評価に対する点検を行い、必要に応じて授業改善に向けての助言を行っている。

FD研修会は、全学組織としてのFD委員会により実施されており、人間科学部教員も積極的に参加している。授業の相互参観においても、原則としてすべての教員がいずれかの授業を参観することになっており、参観後のコメントの交換など、教育内容・方法の改善に向けた有効な方策の一つとして定着している。

#### <4>文学研究科

大学院FD委員会が学期末に学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえて授業担当教員が自己点検・自己評価を行い、授業改善に役立っていると同時に、毎年5月に各専攻が行っている次年度カリキュラムと指導体制の検討に役立っている。

FD 研修会は、全学の FD 委員会により実施されており、文学研究科教員も積極的に参加している。

## 2. 点検・評価

### ●基準4の(3)の充足状況

学部においては、履修科目登録数の上限についてはすべての学科・学年で設定されており、学生に無理のない履修が可能となっている。シラバスは授業担当教員全員に義務づけられており、内容の充実についてはFD委員会が、学位授与方針との整合性については、学部長、学科・専攻長、教育センター長が毎年点検している。成績の評価方法についてはシラバスに明記されており、成績評価に関しては中央値の設定、多元的評価を採用することで学生の学修成果を適切に評価している。単位の実質化に向けては、授業時間の確保とともに、授業外での学習をシラバスに記載している。

研究科においては、大学院FD委員会が大学院授業改善のためのアンケートを実施し、回答結果から得た問題点については研究科長・専攻代表・副学長・教務部長で必要に応じて対応し改善している。成績の評価方法については、シラバスに明記されている。

教育成果の検証については、学生による授業評価アンケートの実施と授業担当教員による自己点検・評価、また学生の意見・要望への回答の公開によって、全学的に授業の点検・改善を行っている。また、FD WEEK、FD 研修会を開催し、教育の内容・方法についての必要な情報を教職員に提供している。以上のことから、同基準をおおむね満たしている。

### ①効果が上がっている事項

シラバス作成、厳格な成績評価、学生による授業評価アンケートの活用などはすでに授業担当教員に定着し、全学的に授業改善に役立っている。FD 研修会への教職員の参加も多い。

### ②改善すべき事項

単位の実質化を実現するためには、授業外の学習時間を確保することが必要である。シラバスには授業外学習の項目を立て、授業前、授業後の学習について記載しているが、具体的な指示になっていないものもある。

学部においては、2014年度入学生から成績評価指標として functional GPA を導入し、厳格な成績評価への第一歩を踏み出したが、解決すべき問題はまだ多い。たとえば、学生個人の学修成果を正確に測定するためには、試験だけではなく、試験とレポート、試験と小テストとか、また複数回の試験実施とか評価方法自体を多元的な評価にする必要がある。本学では授業担当教員に多元的評価を要請しているが強制ではない。また、評価方法の一つであるレポートや発表などについては、経験による印象評価ではなく、学生の学修効果があがるような形成的評価が望まれる。

研究科においては、専修免許状の教職課程における教員養成の理念と具体的な教員像に基づいたカリキュラムを充実させる。

## 3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

シラバス作成については、さらに到達目標と学位授与方針との整合性を考え、学科・専攻内での意思疎通をはかるとともに、シラバスの到達目標が学生にわかりやすく提示されているか、到達目標と学修成果の評価が結びついた書き方になっているかを学科・専攻内、大学院においては研究科および専攻内で確認する。

学生による授業評価アンケートについては、質問項目や実施方法の見直し、アンケート結果の点検によって個々の授業の改善につなげているが、さらに大学全体の教育の質の向上に向けて充実させていく必要がある。

②改善すべき事項

全学において授業外学習を充実させるためには、シラバスの記載内容の改善だけでは十分と言えない。どんな授業をするかが大切で、教育方法の改善から始めなければならない。学生が主体的に参加するような授業形態について他大学での事例、本学での成功例を紹介するとともに、専門家によるFD研修会を開き授業改善につなげる。

学部においては、学生の学修時間の把握について3年生対象のキャリアアプローチで週単位の学習時間調査を既に行っている。2015年度から授業科目ごとの学習時間を、学生による授業評価アンケートを使って調査する。

ループリックの開発については、教務委員会で、すでに一般に公開されている例を参考にして、レポート用、発表用の汎用的なループリックを作成し、授業担当教員に提示する予定にしている。

研究科においては、教員養成に係るカリキュラムやシラバスを見直し、実践的指導力を備え一定の分野について幅広い知識を持つ教員を養成する。理論と実践の往還を重視した実践的な科目を置く予定である。

4. 根拠資料

- 4(3)-1 2013年度 前期・後期 ピア外国語応援サロン利用状況
- 4(3)-2 2012-2014年度講義別受講者数一覧
- 4(3)-3 英語学科スピーチコンテスト案内、ポスタープレゼンテーション案内
- 4(3)-4 女子力磨く鹿児島旅行 (読売新聞 2013年6月7日掲載)
- 4(3)-5 「NADA SAKA SAGASU」(絆ゼミ)
- 4(3)-6 「防災ブック」(竹田ゼミ)
- 4(3)-7 2014年度 担当授業科目等について
- 4(3)-8 2014年度 シラバス(CDR)
- 4(3)-9 2014年度 神戸松蔭女子学院大学 履修ガイド(既出1-6)
- 4(3)-10 2013年度 前期・後期 授業アンケート数表報告書 抜粋
- 4(3)-11 2013年度 担当授業に関する自己点検・評価集 CDR(既出2-4)
- 4(3)-12 2013年度「授業について学生の意見を聞く会」への回答(既出1-17)
- 4(3)-13 FD WEEK 2013実施結果まとめ(既出3-22)
- 4(3)-14 2012年度、2013年度 FD研修会案内(既出3-21)

## 4-(4) 成果

### 1. 現状の説明

#### (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

##### <1>大学全体

学修成果を測定する方法には直接評価と間接評価がある。直接評価としては、科目ごとの試験やレポート、卒業論文・作品、卒業論文・作品発表会、また学科によっては外部試験によって学修成果を測定している。間接評価としては、学期ごと、授業科目ごとに実施する学生による授業評価アンケートによって授業の効果を、毎年入学時に実施する自己発見レポート、3年次に実施するキャリアアプローチ、2013年度に実施した3年生対象の在校生調査によって学生の学習行動の実態や自己成長を測定した。

自己発見レポートの結果は、学生に対しては「キャリアデザイン I」の授業で、キャリアアプローチの結果は学生向け説明会で丁寧に説明され、学生各自の自己評価への活用を促している。教員に対しては、調査結果説明会を開催し学生の学習意識や意欲、学習行動の現状について情報を共有している（資料 4(4)-1）。在校生調査についても同様の説明会を実施している（資料 4(4)-2）。

また、卒業生に対してもアンケート調査を行い、本学の教育に対する卒業生の評価を測定した。調査結果によると、76.6%の卒業生が学生生活に満足していたと回答している。本学で身に付いたことについては、「人を理解し向き合えるコミュニケーション能力」が78.3%、「ものごとを柔軟に考える力」が70.4%、「様々な課題に積極的に取り組む力」が64.7%、「生涯にわたって学び続けることができる基礎力」が64.1%という結果がでており、本学の教育が大学の教育理念に基づいて行われたこと、教育成果が身に付いていることが検証された（資料 4(4)-3）。

##### <2>文学部

各学科の卒業研究は、学科の4年間の教育課程の総合的な成果として位置付けることができる。論文試問や卒業研究発表会などの実施によって、4年間の学修の成果を測定している。

英語学科では、Computer Assisted English Learning の授業の一環として2回のTOEICの受験を義務づけている。学生一人ひとりが自らの英語力を自覚するとともに、具体的な到達目標値を設定するためである。中期留学に行く学生に対してはTOEFLの受験を義務づけている。どちらの外部試験も学生の学力を測定する評価指標として授業を設計する上で貴重な材料となっている。

##### <3>人間科学部

各学科の卒業研究は、学科の4年間の教育課程の総合的な成果として位置付けることができる。論文試問や卒業研究発表会などの実施によって、4年間の学修の成果を測定している。

生活学科都市生活専攻では、卒業研究に学位授与方針に沿ったルーブリックを作成し、成績評価指標としている。JABEE をモデルに、専攻の教員の意見を集約して独自のループ

リックを開発した（資料 4(4)-4）。生活学科食物栄養専攻では、管理栄養士国家試験対策として複数回の外部模擬試験をすることで学生の学力を測るとともに、最終的には国家試験が学修成果を測る重要な評価指標となっている。

#### 〈4〉文学研究科

大学院の教育成果は、学位の授与、研究発表で測定することができる。過去5年間の各専攻の学位授与の実績（入学者も記載）を資料として示した（資料 4(4)-5）。心理学専攻の臨床心理学コースの場合は臨床心理士指定大学院であるため、その教育成果は臨床心理士の資格取得として示すことができる。臨床心理学コース修了者数と臨床心理士資格取得者数を資料として示す（資料 4(4)-6）。

### (2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

#### 〈1〉大学全体

卒業認定、学位授与は大学学則第9条、第22条、第23条ならびに学位規程に定められている（資料 4(4)-7）。学科ごとに指定された科目区分の単位数を履修し、かつ124単位以上修得した者について、教授会の議を経て卒業認定が行われ、認定された者に学長が学位を授与する。学則および学位規程は学生便覧に明記し、学生に公表している。

#### 〈2〉文学部

文学部の学位授与は、学則の定めるところに従い、所定の在学期間を終え、定められた科目区分の卒業必要単位（124単位）を修得した者について、教授会（卒業認定会議）の議を経て、学長が卒業を認定した者に対して行っている。

#### 〈3〉人間科学部

人間科学部の学位授与は、学則の定めるところに従い、所定の在学期間を終え、定められた科目区分の卒業必要単位（124単位）を修得した者について、教授会（卒業認定会議）の議を経て、学長が卒業を認定した者に対して行っている。

#### 〈4〉文学研究科

大学院要覧において修士課程3専攻の「修了要件・単位履修方法」を示している。博士課程の言語科学専攻についても大学院要覧の「単位履修の方法」において修了要件を明示している。

学位論文審査については、神戸松蔭女子学院大学大学院学位規程に基づき、各論文に対して3名の教員からなる審査委員会を大学院委員会の承認のもとに構成する。審査結果は大学院委員会で報告され審議される。審査基準については専攻ごとに修士論文審査基準および博士論文審査基準を定めている（資料 4(4)-8）。また、修士課程3専攻では、大学院要覧に「論文審査と学位認定の方法」を専攻ごとに掲載している（資料 4(4)-9 p. 27、p. 31、p. 33、p. 36）。博士課程の言語科学専攻では、「研究指導方法」「博士論文提出までの日程概要」として、論文審査の流れと認定の方法を大学院要覧に詳しく示している。

## 2. 点検・評価

### ●基準4の(4)の充足状況

学部においては、学修成果を測定する直接的な方法として試験、レポート、発表などによって授業科目の到達目標の達成度を測定している。一部の教員や教職課程で学修ポートフォリオやルーブリックを用いている。また、学科によっては外部試験を学力測定の方法として採用している。国家試験、卒業研究は4年間の学修成果を測る材料になっている。間接的な方法として、各種学生アンケートを行って学修行動を調査している。

研究科においては、その教育成果は、学位の授与、研究発表で測定している。特に心理学専攻の臨床心理学コースの場合は、臨床心理士指定大学院であるため、その教育成果は臨床心理士の資格取得として示すことができる。

学位の授与については、学則および学位規程の定めるところにより適切に行われており、学生便覧において学生に公表している。

以上のことから、学修成果を測定するための同基準をおおむね満たしている。

### ①効果が上がっている事項

学部においては、学生へのアンケート調査のデータは年を追って蓄積されてきている。自己発見レポートは新生を対象に実施した。また、新生が2年間の教育でどのくらい成長したかを測定するために3年生を対象にキャリアアプローチを実施した。在校生調査では自己発見レポートやキャリアアプローチとは異なる角度から在学生の大学での学びや学生生活について調査を行った。卒業生調査によって本学における教育成果が検証された。

外部試験の利用回数が増えることによって、学生の学力をより正確に測定することができるようになった。ルーブリックについては、成績評価に使用する教員が現れてきた。学修ポートフォリオも一部の教員によって学生の成長を測る形成的評価として、学生にとっては学修履歴の収集と振り返りの材料として利用されている。

研究科においては、大学院授業改善のためのアンケートにおいて、各専攻ともおおむね5段階で4以上の評価を得ており、教育方法については評価されている（資料4(4)-10）。

### ②改善すべき事項

学部においては、自己発見レポート、キャリアアプローチは本学の学生のみを対象としたアンケート調査であり、他大学との比較から本学の学生の性向や特徴を明らかにするものではない。

研究科においては、もともと少人数クラスなので授業改善のためのアンケートは、回答数が少ないので全体の傾向を反映するかどうかには疑問がある。（資料4(4)-10）。

評価観点ごとの到達目標を段階的に評価できるルーブリックの使用は、学内の一部にとどまっている。紙ベースの学修ポートフォリオは少数の授業担当教員により使用されているが、e学修ポートフォリオの導入はまだである。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

学生アンケート調査のデータは収集するだけでなく、蓄積されたデータから学生の行

動や学修習慣の一般的傾向や特徴を抽出し、それを基に教育の質の向上に生かしていくことが重要である。

外部テストについては、学修への効果を測定し、利用方法を定期的に検討する。

## ②改善すべき事項

学部においては、他大学の学生と本学の学生を比較するために、複数の大学が参加するアンケート調査に本学も参加することを検討する。

ルーブリックの調査・研究と開発は教務委員会で検討を開始した。

ルーブリックは授業科目ごとに学修成果を多面的に評価できるので、学生にとってきめ細かな振り返りと将来に向けての具体的な学修目標の設定を可能とする。ルーブリックの開発と教員への浸透が喫緊の課題である。

学生にとって学修履歴の蓄積と、学修の振り返りを可能とし、授業担当教員にとっては学生の成長の形成的評価を可能とする e 学修ポートフォリオは、有効な教育ツールとして認められつつある。

学修ポートフォリオについては、2014 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業のタイプ 1「教育の質的転換」に申請し、採択された。今後は全学的に学修ポートフォリオが運用できる環境を整備する。学修成果物をポートフォリオに蓄積し、振り返り学習ができるように準備する。

研究科においては、授業の終了後に評価するだけでなく、授業期間中に授業担当者と相互に情報を交換できるような仕組みを検討する。

## 4. 根拠資料

- 4(4)-1 2014 年度 大学生基礎力調査（自己発見レポート I キャリアアプローチ）結果報告（既出 1-23）
- 4(4)-2 2013 在校生調査集計レポート 2013.9（抜粋）
- 4(4)-3 2013 年度 神戸松蔭女子学院大学卒業生調査 報告書（既出 1-15）
- 4(4)-4 2013 年度 生活学科都市生活専攻 教育目標達成度評価 ルーブリック
- 4(4)-5 文学研究科 入学者数と学位授与者数
- 4(4)-6 臨床心理学コース修了者数と臨床心理士資格試験合格者数
- 4(4)-7 神戸松蔭女子学院大学学則（既出 1-2）  
神戸松蔭女子学院大学大学院 学位規程
- 4(4)-8 2014 年度 大学院要覧補遺（既出 1-8）
- 4(4)-9 2014 年度 神戸松蔭女子学院大学大学院 大学院要覧（既出 1-9）
- 4(4)-10 2013 年度後期 大学院授業改善のためのアンケート集計結果（既出 3-26）
- 4(4)-11 \*2014 年度 文学部時間割表  
\*2014 年度 人間科学部時間割表  
\*2014 年度 大学院時間割表

（\*は本文中に記載はないが、提出を求められている資料）